学校だより

みどりの

11月号

○考え伝え合う子
○心豊かな子
○元気な子
○やりぬく子

令和３年１１月１日

ヨソ様とヨソ者

校長　遠藤　昌司

秋晴れという言葉がぴったりな陽気の日が増えてきました。空気が澄んでいることもあり、秋の空では特徴的な形の雲を見ることができます。天気のいい日に、忙しい手を止めて空を見上げてみるのも良いものです。

先月、小田急線の事故で登校時に踏切が閉鎖されてしまった日がありました。線路の東側の登校班は足止め状態になっており、当日、旗振りをされていたＰＴＡ会長さんがその状況を学校へ連絡して下さいました。ありがたいことです。それを受け、始業前の本校教員がすぐに現地へ駆けつけ、子ども達が安全に登校できるよう、う回路の誘導をしました。頼もしい限りです。

同じく登校の時のことで、別の日にはこんな出来事もありました。登校班で学校へ向かっている途中、家の鍵を側溝に落としてしまった子がいたところ、旗振りの校外委員さんがその様子に気づかれて面倒をみてくださっていました。そこを通りかかった出勤途中の本校教員もその状況に気づき対応に加わり、更には近くにお住いの方がハンガーを加工して鍵を拾い上げてくださいました。校外委員さんが預かってくださって、先に学校へ到着していた本人の手に無事戻ることとなりました。

私が子どもの頃は、「よそ様に迷惑をかけないように」という教えがまだ残っていましたが、保護者の皆さんの世代ではいかがでしょうか。

２０年近く前に読んだ記事を、今でも思い返すことがあります。公衆でのマナーの低下について、青少年問題を研究されている大学の先生が書かれた、「ヨソ様喪失時代と逸脱」という記事です。内容についてここでは全てに触れることはできませんが、その中では人間関係について、自分を中心として一番内側に「ミウチ」、その外側に「ヨソ様」、さらにその外側に「ヨソ者」という同心円の三重構造の中で営まれてきていたと分析されています。同じ第三者でありながら、「ヨソ様」は重要な意味を持つ無視できない存在、「ヨソ者」は無視すべき存在で、気配りや思いやりを必要としない存在と続きます。

先に挙げた出来事の中での近くにお住まいの方、保護者でもあるＰＴＡ会長さんや校外委員さん、教員は、子ども達にとっての第三者です。地域の方々、保護者の皆さん、そして学校が「ヨソ者」となることなく、温かく見守る存在として、それぞれの立場からこの地域の子ども達の成長を支えていける環境を、これからも大事にしていきたいと思っています。

なお、今回の出来事などのように緊急時の対応で教員が学区内に出ていくことがあるかと思いますが、対応優先で普段あるべき挨拶などが欠けてしまうこともあるかもしれません。その際は、状況を鑑みていただきご容赦ください。

さて、２日（火）と４日（木）は体育発表会です。秋晴れを期待し、子ども達が伸び伸びと運動している様子をご覧いただきたいと思います。